

愛友会四国連合会報

第 27 号

54. 7



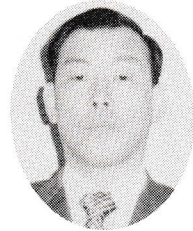
目 次

電友会のみなさんへ……………	四国電気通信局副局長……………	二
電友会の皆様へ……………	愛媛電気通信部長……………	二
電電公社の現況について……………	四国電気通信局文書広報課……………	三
恩給・共済年金受給者の処遇改善に関する陳情書……………		三
高齢退職者に対する健康診断の実施について……………		四
共済会だより(六)……………		四
愛媛電友会南予地区総会記……………		五
春の生存者叙勲について……………		五
電気関係功労者の表彰……………		五
共済会主催第三回歩こう会……………		五
「でんでん日尾クラブ」第七回集会……………		五
特集 集…私の生き甲斐・私の健康法・私の趣味……………		六
高橋 数一 山下 武夫 木村 信義 古山真佐子		
小浜 三郎 三島 富一 栗松 春美 志摩 広幸		
佐藤 政澄 香川与四郎 大野 正義 中川喜代以知		
川津ヨシ子 原田 照男 池田 清繁		
表紙のことば……………	莊野 丹秀……………	二〇
短 歌……………	藤田 基孝……………	二〇
余 栄……………		二〇
随 筆……………	山下 茂・田中義隆・藤田基孝……………	二一
俳 句……………	友佳里五月句会報……………	二一
訃 報……………		三
編集後記……………		三

電友会のみなさんへ

四国電気通信局副局長

阪上昭二



本年二月の定期人事異動でこの四国の地に勤務することとなりました。四国は私にとって初めての地でありますが、美しい自然と豊かな人情に満ちたこの土地に勤務できることを、心から嬉しく思っています。

また電友会につきましては、十年近くにわたり携わってきた共済組合や人事関係の業務を通じ、私には比較的縁の深い会でありますが、当四国では関係各位のご努力によって会員数も増え、いろいろな活動も展開されるなど、順調な運営が図られているとのことと、私達公社に在職する者にとりまして喜ばしい限りであります。

先輩の皆様を含め公社関係者がかねてから念願とし、努力してきました全国的規模での加入電話の積滞解消と、自動即時化という二大目標は、今日漸く達成されました。四国においても加入電話数は現在一二六万、人口百人当りの普及率は三〇・二となり、五三年度末の積滞数は僅に三四三四、そのうち一カ月を超えるものは七件と大巾に改善されました。また昨年十一月には四国で最後まで残された手動交換局、魚神山の自動化によって、四国の電話は総て自動化されるに至りました。この二大目標の達成はいうまでもなく皆様方諸

先輩の多くのご苦労の積み重ねがあったればこそ実現できたものであり、ここに改めて感謝の意を表する次第であります。

さて発足以来の二大目標を達成した公社のこれからの課題は、顧客中心の経営姿勢を一層強化し、サービスの質的充実をはかることとあります。全国に網羅されたネットワークを運営し、その効用を利用者にあまねく提供するサービス産業としての公社にとって今日の需給均衡をひきつづき維持することはもちろん、これまでに築きあげられた膨大な電気通信システムを更に維持向上させ、その効用と信頼性を高める一方、サービスの地域格差の是正を図ることがなによりも重要な使命となってきました。その具体的遂行の過程では当然のことながら、多くの未経験の問題との出会い、また戸惑いと試行錯誤は避けられないことと思いますが、電友会の皆様にはどうか暖い眼で後輩の仕事に對しご助言いただければ有難いことと思っています。

昨今は地域の時代といわれています。公社事業は本来的に地域に密着した事業であります。が、新たな時代を迎え、従来以上に地域との関わりが重視されてきました。他方政府においても定住圏構想が打出され、我が国の近代化以来百年余にわたって進められてきた中央集権的諸体制が問いなおされ、地域を重視する政策がとられようとしています。公社としても今後これに積極的役割を果たすことが期待されています。ここで電友会の皆様にお願ひしたいことは、公社と地域との接触にさいし、潤滑油としての機能を果たしていただきたいということです。公社はその規模、内容において我が国でも一、二の水準に達しはしましたが、地域との関わりという点では歴史

的経緯もあってなお力不足ということは否めません。今後この面での力をつけるに当たっては、先輩であるとともに部外者でもある皆様方のお力添えをぜひお願ひしなければならぬと思います。またそのためには私達もできるだけ皆様に事業の動向をお知らせして、公社の立場をご理解いただく努力をしていきたいと思っています。

私としても四国に着任以来まだ日も浅く、できるだけ先輩の皆様方にお目にかかる機会を得て、ご助言を賜れば幸せと考えております。

電友会の皆様へ

愛媛電気通信部長

安部孝



電友会の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのことと存じます。

ごあいさつが遅れましたが、本年一月の定期人事異動で愛媛電気通信部長を命ぜられました。私は、かつて昭和四十七八年の二年間、四国電気通信局建設部長として勤務させていただいたことがあり、四国は二度目の勤務地であります。

したがいまして、諸先輩の中には随分顔なじみの方もあり、大変懐かしい思いがしております。今回再び美しい自然と豊かな人情に満ちた四国で仕事ができますことを、本当に幸せに思っております。

電電公社も長年の念願であった積滞解消とダイヤル化一〇〇パーセントという二大目標が、四国においても昨年一月に達成できましたことは皆様もすでにご承知のとおりでございます。このことは、職員の努力だけではなく、諸先輩の業績とご協力によるものであり、厚くお礼申し上げます。

さて、宿願を果たした今後の公社事業は、名実ともにサービスの充実と需要の開拓へと質的転換を図る重要な時期を迎えており、私達は新たな視点において顧客中心の経営姿勢に徹したいと考えております。

公社事業は地域の人達と密接につながっており、地域社会の理解と協力が極めて大切であり、私達は今まで以上に接触を深めて参りたいと思いますので、電友会の皆様の格別のお力添えをお願いする次第です。このためにも、できるだけお聞かせいただくとともに、公社の動向などをお話し申し上げ、ご助言をいただければ誠に幸せと考えっております。最後に諸先輩の皆様方には、ますますご健康で活躍くださいますとともに、電友会のご発展を心からお祈りいたしまして、私のごあいさつといたします。

電電公社の現況について

四国電気通信局文書広報課

五四・三・一四、これは、日本の電話がすべてダイヤル直通になった日であります。四国の完成は、五三・一一・一五でありました。が、公社発足以来二十七年目の偉業達成であり、あらためて諸先輩の御功績を思い浮べる次第であります。

さて、昭和五十四年度、それは電信電話拡

充改良第六次五カ年計画の二年目であり、外に諸問題をかかえ転換期にさしかかった中で、昨年はこれからの進むべき道を模索した年でありましたが、本年は大綱その進むべき道を見出し、具体的に取り組んでいこうとする、まさに新しい動きが始まる年であるといえます。

まず、社外に対する対応のあり方としては次のように考えています。

(一)料金苦情、明細サービスの実施、サービス格差の是正……これらは、お客の声が高度化、多様化していることのあらわれであり、これらの声に堪えられるサービスのあり方を考え、実施していく必要がある。

(二)基本問題会議における提言、ユーザ協議会における公社批判、行管庁勧告、東京ラウンド問題……等々、これらは、公企体であり、独占事業であることをベースとした事業運営が好況であることをベースとした公社批判等であったわけですが、このような中で事業運営を円滑化するための前提条件としては、①公社に任せてもらえるための「信頼感」と②地域の人々から親しまれる「親近感」、この二つの気持をもって迎えられる電話局、これを目指して日常の接触や広報活動等を積み重ねる努力をしなければならぬ。

(三)宮城沖地震、成田開港に伴う過激派の通信妨害、東京データ局の火災……等々、これらは、通信と社会活動の密接なつながりを明確な形で示しました。通信の途絶、混乱がもたらす社会的影響は、我々の想像以上のものがあり、悪意による妨害への対応も含め、通信確保の重要性を再認識するとともに、その具体策を整えておかねばならない。

一方、社内の業務も、お客の動向等にマッ

チする体制を作ることを中心として、次のような考え方で、具体的施策を検討し、実施に移すべく動きが始まっております。

(一)窓口の分割設置やサービス・ステーション、あるいは臨時移動窓口の設置など、営業窓口の整備拡充によって、お客の利便向上をはかる。

(二)お客の利用動向にあわせた電話運用業務とするため、この業務のあり方を見直し、併せてクレジットカード通話、料金着信人払い通話等の新しいサービスの導入についても検討する。

(三)電信サービスに対するお客の利用動向にあわせ、電報受付業務について終日局、昼間取扱局に区分して対応すること、あるいは電報業務と営業業務との複合的運営など、運営形態の改善をはかる。

簡単ですが以上が公社の事業現況であり、今後とも諸先輩方の御指導、御助言等をいただきながら、着実に歩んでまいりたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

昭和五十五年度恩給・共済年金受給者の

処遇改善に関する陳情書

恩給・共済年金受給者の処遇改善につきましては、いつもながら格別のご配慮にあずかり、私ども電電公社関係退職者はひとしくそのご厚志に感謝いたしております。

おかげをもちまして、逐年改善の実があらがり、昭和五十四年度においては相当の改善が図られましたことは、これひとえに関係各位のご尽力によるものと厚くお礼申し上げます。しかしながら、恩給・共済年金受給者の処遇につきましては、本質的な改善すべき多くの問題を残しておりますので、昭和五十

五年度国家予算等の編成に関連し、左記の改善措置を是非講ぜられよう特別のご高配を賜わりたく、会員一同の総意に基づき、ここに謹んでお願い申し上げます。

また、現在公共企業体共済組合においては、いわゆる整理資源に対する国庫の予算措置はなく、公共企業体自身の負担となっており、更に厚生年金においては、給付費の二〇%が国庫の負担となっているのに対し、共済年金については給付費の一五%が公共企業体負担となっており、これらが国庫の負担となれば、受給者の不安が一掃されますので、その実現につき何分のご高配をお願いいたします。

記

一 恩給・共済年金については実質価値が維持できるよう自動スライド方式を制度化していただきたい。

二 恩給・共済年金の改定時期については、すべて四月一日実施とし、現職公務員の給与改定時期から一年遅れとなっているのをこれを同時期にしたい。

三 恩給算定の基礎となる仮定俸給を総点検して格差を是正するほか、恩給と共済年金との格差及び退職年次による格差の一層の是正を図っていただきたい。

四 遺族扶助料または遺族年金の算定基準額は、恩給・共済年金の八〇%に改善していただきたい。

五 恩給・共済年金受給者に対する老齢福祉年金の併給制限を全面的に撤廃していただきたい。

六 高齢者の年金に対する課税については、現行の租税特別措置法による時限措置である高齢者の年金特別控除を恒久立法とし、昭和五十五年については七八万円を一〇〇万円としていただきたい。

また、恩給・共済年金は、一般の所得と性質が異っており、特に高齢者については唯一の生活の糧でありますので、これに對しては、非課税とするか、課税上の優遇措置を現在よりも更に進めていただくようお願いいたします。

七 高齢者等に対する恩給・共済年金の額の算出率の特例措置を最低保障額の別枠としていただきたい。

(この陳情書は、電電公社退職者団体連合会長と各県の会長が連名で五月中旬にそれぞれ陳情しました。)

おしらせ

高齢退職者に対する健康診断の実施について

公社を高齢退職された方のうち、希望者に対しては、昨年同様公社職員等の健康診断に準じて、「一般検診」及び「胃部検診」が左記により実施されることになりました。

記

一 対象者

高齢退職者で希望する者に実施。但し再就職者等で健康診断が受けられる者は除く。

二 実施局所

退職時の所属局所等で実施する。但し対象者が住所変更等により遠隔地に居住している場合は、その住居の最寄りの局所で受検することができ。

三 実施方法

五十四年度については「五十四年度、X線車巡回日程表」により実施するので対象希望者は事前に受検を希望する実施局所へ

申し込んでおくこと。「X線車巡回日程表」は各県の会事務所に知らしてあります。

四 健康診断の結果、異常所見が認められた者には、その結果を本人に通知される。

但し、その後の医療処置については自己解決となります。検診のための検査費及び物品費は公社が負担するが、受検者の交通費は本人負担とする。

共済会だより (六)

電気通信共済会四国支部 福祉相談所

◎OB大学園芸科が盛況です

本年度第一回の園芸科は、四月一日(金)番町公民館に九〇名が集まり、部内OBで愛媛さつき協合理事長の渡部義綱さんから園芸全般の基礎講座を受けました。

第二回は、五月二日(土)奥道後フラワールンドのバラ園で、愛媛バラ会理事の石橋道則さんからバラ作りの実地指導を受けました。

第三回以降の予定は、次のとおりです。

回	月日	場 所	講 座 内 容
3	6・9(出)	番町公民館	さつき
4	7・14(出)	奥道後柳	きく
5	10・13(出)	番町公民館	洋らん、山草類
6	3・7(金)	同 右	さしき、つぎ木等

時間は、いずれも13・30から16・00です。

◎余技作品展を開きます

一、月ころ松山で開催するよう計画を進めております。

品目は別に限定しません。洋画、日本画、

写真、書、盆栽、手芸、焼きもの、その他何でも結構です。多数の出品を期待しております。

◎医療共済制度が改正されました

万一病気で公社または郵政の医療機関を利用するとき、その医療費の半分を援助する制度ですが、四月一日から次のように改正されました。

- (一) 共済組合の任意継続加入者は、その期間が切れたあと九〇日以内であれば医療共済に加入できる。(従来は退職後六か月以内)
- (二) 任意継続と医療共済の両方に加入している方は、昭和五十四年一月一日以降の重複加入期間に対し、その二分の一を延伸する。

愛媛電友会南予地区総会記

昭和四十五年六月二十八日南予電友会懇談会として呱呱の声をあげた会も満十歳を迎え、去る四月十日桜花爛漫の水郷大洲市若宮公会堂で開催しました。集るもの三十数名、賑やかな楽しい一日となりました。

地元大洲電報電話局よりはご多忙中にもかかわらず行天局長様をはじめ幹部の方のご出席をいただき、局長様から最近の公社事業や大洲局の現状について詳しく説明をきかして戴き、われわれがかつては勤めた電電公社の限らない発展に喜びを感じるとともに往時を偲び、あの日 この日が 昨日のように甦りました。そのうえ大洲・八幡浜・宇和・宇和島・御荘の各局長様から格別のご援助をいただき、退職したあととまでもこのような過分のご配慮をただただありがたく感激致しました。一同を代表致しまして厚くお礼申し上げます。

今回は役員改選期でありましたが、皆様の

ご指名により引き続き幹事を引受けることになりました。微力ではありますが会の永続と発展に努力致す所存であります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

末筆ですが今回の総会開催に当り、ご援助いただきました各局長様に重ねて厚くお礼申し上げます。

(愛媛電友会南予地区代表 大森 勇)

春の生存者叙勲について

昭和五十四年春の叙勲に愛媛電友会の赤刳正殿が多年にわたり電信電話事業に貢献されたご功績により「勲四等瑞宝章」をお受けになりました。私ども一同ここから喜び申し上げます。

電気関係功労者の表彰

去る三月二十五日の電気記念日に満八十才以上の電気関係功労者として次の方々へ、社団法人日本電気協会会長から感謝状および記念品(会津塗朱三重木杯)が贈られました。まことにめでとうございます。

小島 好喜殿(高知)
土橋 晴義殿(徳島)
東原 唯市殿(高松)
廣瀬 芳太郎殿(高松)
浜垣 茂殿(徳島)
梅木 好市殿(松山)

共済会主催第三回歩こう会

ハイキング日和の四月七日、新居浜行バスを落手で下車。昔は海だったという滑川溪谷

へ約八キロの道は、滑川沿いの若葉にウグイスが絶えず鳴く。
参加者約三〇名、海上までのバス便は利用せず、三三五と連れだって、満開のサクラを嘆賞しながら歩を進ぶ。山採を摘んだりカメラを構えたり、久しぶりにじんわりと快い汗をかく。

溪谷の中心では清流に缶ビールを浸し、先発隊が万端すでに設営済み。やがて炊きたての飯ごうめしと熱い酒と、「しっかり召し上がれ」とすすめられるままに、飲んで食べて大満悦。世話役の陰のご苦勞に、あらためて感謝申し上げます。

このコースは平たんて快適、まさにOB向き。しかも帰途はらくらくと貸切りバスで気分最高、和気あいあいと次回をたのしみにして帰松した。

「でんでん日尾クラブ」第七回集会

快晴で夏めく五月十九日、松山市久米公民館で遅れていた春季例会を開催する。郷土史を聴く集りなので家族も出席、これからは家族ぐるみの近所づきあいが始まるだろう。

次回の計画など二三の議事を終ってから、この近くの松山市来住(きし)・長隆寺遺跡発見者・大山正風氏(大山澄太先生令息)の講話を聴く。同寺は諸国の国分寺に先立って建立されたもので、古代の久米の土地の繁栄が偲ばれる。

さらに講師の案内で一同そろって現地へ行き、遺構(塔跡・講堂跡・伽藍跡)の説明に続いて巨大な礎石などを見る。国道11号線バイパスがそばまで延びてきて、さかんに工事であった。

(T生)

特 集 (一)

私の生き甲斐



高 橋 数 一 (西条)

生きがいとなっているものに、読書と釣りもあるが、先ず書くことがある。それだけでけっこう忙しく、しかもそれよりほかに能はない。

碁も将棋も知らず、麻雀ときたらまるで駄目なのだ。書く読む釣るに惹かれて、盤上遊戯などは覚える暇もなかったということになる。人の相手もできない自分を憐れむ思いがないでもないが、格別な後悔とはなっていない。

いま三つの同人雑誌に関係して、それぞれ連載物を書いており、また三つの短歌結社に属して、時々作品を発表している。そのほか政治団体の機関新聞に寄稿したり、一般の新聞、雑誌へ投書したりすることもある。

依頼を受けて、二百字詰で二百二十一枚の小説を三日で書き上げ、当時の給料の半年分にひとしい給料を手にしたこともあるが、その壮年時に比べると、年のせいでだいぶ筆力が落ち、短い物でも日に三篇も書くと、かなり疲れる。しかし充実感は覚える。

若い頃は応募の散文作品でよく賞を取ったが、もう権威ある賞への野心なんか消えている。地方の片隅にひっそりと生きる老残の無名作家、無名評論家の分を守るしかない。

読むのも楽しいことだが、ひどい乱読である。

る。だが、月に十種の雑誌はやや辛度い。釣りは川での小物釣り。スケールが小さくて自慢にもならぬが、これはまったく本能的といってもいい程の好きな遊びだ。

山 下 武 夫 (松山)

生甲斐と大語し得るかどうかわかりませんが私の日課などを書いてみたいと存じます。

人生七十を越すと生甲斐とはと泌々感じるこの頃です。友人が他界し、兄弟が次々と亡くなり親類縁者に不幸があると、さてこの次はと考える事の多い日々です。

さて私の日課ですが天気が好ければ毎日小百姓の真似をして居ります。

雨の日・天気の日朝夕は、下手な俳句、盲人用図書のでん訳こんな事で毎日を過しております。てん訳は退職直後から始めたので約十三年、てん訳書は約二百巻になりました。この先何年の余命が与えられているか判りませんが、てん訳も続けたいと存じますし、下手なりの俳句も続け度いと思つて居ります。

又毎春秋田舎(上浮穴郡小田町)へ墓参を繰返して居りますが、ふと気がつく、何時の間にか自分が一族の長老となっているのに驚く事があります。

一族の長老と古い彼岸会に 落生

これは日課ではありませんが、陽春四月ともなれば、あちらこちらの山を歩いてワラビ取りをして居ります。これは獲物よりも運動の為として居ります。

又七月になれば梅本町の通信局のプールへ泳ぎに行く事にして居り七、八月中の事です。平凡な日々が何時迄続くか考える事の多いこの頃です。

木 村 信 義 (讃岐三木)

元来ズボラで取り立てて健康に気を配っていないわけでもなく、趣味と云える程のものも持ち合わせていないし、生き甲斐等についても考えたこともないので私の近況について少し記したいと思ひます。

昨年公社を退職して早や半年余り、第二の人生を楽しく、のんびり過ごしております。

退職を機会に寓居を新築、と云つても現在造作中ですが、完成すれば庭に木を植えたり草花を作ったり、小鳥が来て囀るような庭にしたいと夢は持っているものの、全く素人のかなしさ、何から手をつけてよいやら分らないので、「香川OB園芸クラブ」の発足と同時に入会し、先輩達に色々聞いたり、「趣味の園芸」等を読んで勉強しております。

大平さんの言葉のように「どんな花が咲くかわからないが毎日水をやるのが大切」だそうだから、水をかけることに生き甲斐を見つきたいと考えている今日此の頃です。

古 山 真 佐 子 (松山)

昨年の暮に古希を迎えましたが、元気で過しています。今の私の生きがいは、退職後に始めた趣味のいろいろで、その趣味に支えられ忙がしく楽しい毎日です。

先ず始めたのが民謡でした。音楽のことなどまるで知らない私でしたが、なんとか先生の節について行くうち二、三年後には、自分なりに納得できるような状態になりました。次にとりこにされたのが押絵でした。型紙の上に綿を置き、色とりどりの布ぎれをかぶせ

色紙の上に人形を形作って行くのです。年のせいか目の方は疲れやすくて思うようになりませんが、疑り性の私にぴったりで、習い始めたころは寝ることも忘れて熱中し、今では芸術家と自負しています。最近二、三年首をつっこんでいるのが踊りです。日本舞踊のように格調高いものではなく、歌謡曲に振りをつけて踊るものです。世間でいう老人舞踊会ですが、お友達も多くなり、みんな青春のよう生き生きと目が輝いています。最近では市の老人大会にも出演したり、年に四、五回老人ホームを慰問したりしています。

小 浜 三 郎 (琴平)

人生僅か五十年と言われたのは、もう遠い昔のことである。今では八十年位健康で恵まれた人生をおくりたいものである。

今日一日が幸せな人生であるよう生きがい求めて、あと二十年でも三十年でも生きてみたいと思っている。

今私の生きがいは、一つには大平首相の国づくりは家庭からと言われるように、家庭本位の生活をおくっている。妻と長男夫婦に孫二人の六人家族で平凡ながら誰もが健康で平和な楽しい家庭であり、孫二人の二十年後、三十年後の成長を見ることが私の大きな生きがいである。二つ目は在職中町内の方々に随分とお世話になったので、ご恩返しのため

りて町内会長の役をお引受けして、町内への奉仕とお世話をにつづけている。また退職後、檀那寺の総代をおおせつかったので、年間七八回のお寺の諸行事と、檀家信徒等のためには、四国八十八ヶ所、西国三十三ヶ所の巡拝更に坂東三十三ヶ寺、秩父三十四ヶ寺の合せて百観音様の巡拝のお世話をしながら、私自身も弘法大師と同行二人の旅をつづけています。このような公的仕事そのものが私の生きがいとなっている。

三つには退職後趣味の鉢作りも楽しんでいたが、過日電電OB園芸クラブに入会したのを機会に、園芸クラブの先輩に教わって、鉢物から盆栽へと更に趣味を延ばしてゆくよう心掛けています。盆栽の数の増えてゆくことは私の生きがいであり、長生きしていることである。

今後は更に新しい生きがいを求めて、人生を長く、そして意義あるものにしたいと念じています。

三 島 富 二 (徳島)

徳島市花と緑の会が発足したのは昭和五十二年十一月で「佐古、昭和、東、西富田」の四地区に指定して、花と緑の推進に務めていますが、過去汚れた街と云うコンプレックスもなく、きれいだと言ふ自負心を持つ様になり市の方の理解もあり全市的に緑化意識が高まり緑一ぱいの町づくりは着実に成果をあげています。

私等の佐古地区も花と緑の会会長の呼び掛けにより市長出席のもと五十二年五月公民館に於て発会式を挙げ毎月第一日曜日午前七時に集合佐古大通りのグリーンベルト、現在つ

つじ満開数千本の剪定、清掃、除草して成果をあげている。これにより花は美しく、ドライバー市民県外人の眼を楽ませている。本年三月二十四日に徳島市花と緑の会主催、徳島市教育委員会後援にて蚕糸会館で市民大会が開かれ、私も功労者表彰を市長及会長より受け生甲斐を覚えた。今後は公園、神社、仏閣へと手を広げて行き度いと念願して居ります。

乗 松 春 美 (松山)

昭和四十五年四月に電電公社を退職して、間もなく電話協会の仕事を始めましたが、自分では最初二、三年やればと思っておりました。ところがテレックスと電話協会とを統合して、法人化(ユーザ協会設立)のことがあって、知らぬ間に八ヶ年の月日が経ちました。昨年の五月の末、協会をやめることになり、現在は元気に家におります。

今ここで静かに思うことは、公社生活に約四十二年、協会の方を加えると約五十年勤めることができました。私にとっては、公社に勤められたからこそだと、ただ有難さで胸がいっぱいです。ご存じのように、協会の仕事というのは、公社と密接な関係のある大口企業とのパイプ役でありまして、大事な仕事だけに働き甲斐あることは申すまでもありません。長い間、無事に勤められたのも、公社の皆様方の温いご支援の賜だと感謝致しております。

公社にいた頃から考えていた事ではあります。退職したら老後は一度は四国八十八ヶ所の霊場巡りをせびしりたいと思っておりましたが、やっと最近になって実行することな

りました。

早春の二月十七日には妻と二人で四国一の難所である六十番札所の横峰寺へおまいりいたしました。春とはいっても、まだうすら寒い日でありましたが、お天気がよく朝一番の松山市駅発バスで出発し、山の頂上に着くと汗ばむ程で、すぐ近くに雪をかむった石鎚山が見えました。けわしい山道であるだけに、往復四時間かかるというだけあり、登りは二時間二十分をすぎました。お寺には雪の固まりがいっぱいでした。下りは早く、一時間そこそこで下山することが出来ました。今やっとな愛媛県の札所が終りましたところですが、これからは伊予鉄バスなど利用して妻と二人で他の県へも足を伸ばしたいと楽しみにしております。

老後の願いを実現したいと思っています。

特 集 (二)

私の健康法

志 摩 広 幸 (徳島)

辞書に曰く「余生とは、残りの人生なり」と。世上、勤め先を停年退職したときの挨拶状に「……今後は、余生を楽しむ云々」と述べられているのが多いようである。齢七十古来稀なりといわれた時代なら兎も角、平均寿命も随分長くなっている当節に五十代で停年退職をした後の人生を「残りの人生」視するのはどうかと思う。み台所が台所で野菜料理をしたとき、残りものはどのように始末するだろうか、いわゆる残菜である。これからの人生を残菜と同列？に観念しては、

自ずから残菜に似た命運を辿ることにもなり易いのではなからうか。果ては、年金財源の蓄積に協力して厚生大臣に安心させることになりかねない。いまは、権利主張の時代だそうであるから、年金受給権を予め放棄するような観念は放棄して「新しい人生へのスタート……末長く……」くらいの意識が肝要なのではあるまいか。また、何もしなくてよい環境に陥らないことが大切であろうと思う。つねに「しなければならぬこと」を持ちつづけることが心と身にハリを与えてくれる。

自由に選べる趣味の世界に、それにふさわしいものがある筈である。

むかしの軍隊で古参上等兵を、神さんとか仏さんとか呼び、内務作業は何もさせず整頓棚へ祀りあげるように扱っていた。その境涯になると、ほどなく満期除隊になったものである。

何もなくてよいのは、まことにありがたいようではあるが、人生がまもなく満期除隊では、ありがたい話ではなさそうである。

長年の公社勤めに明けくれての果てとは云い条、純社会人生活の面では初年兵なみであるといえないだろうか。

いささか放言じみたことを書きならべたが、残念なことは「経験者は語る」ではないことである。この点に誤解のないように特に付言しておきたい。

佐 藤 政 澄 (高松)

不老長寿の薬を探し求めた秦の始皇帝の話があるが、人間は何時の時代においても健康で長生きしたい願望は今も昔も変りはない。若い時とは違って、電電公社を退職し、第

二の人生に入った現在、何時しか健康のことが気にかかる年頃となった。一体、健康な人とは、――

(1) 食事がうまい。(2) 少々のことでは風邪をひかない。(3) 昼間は元気に仕事が出来て、そんなに疲れを感じない。(4) 夜はよく眠れて、朝は気持ちよく元気に起きられる――こんな人をいう。この四つの条件について我身を考えると、必ずしも満足する状態とはいえない。これから先、如何に健康を維持するか、私達同年輩のひとしく心配するところである。健康法には次の三つの原則がある。

(1) 食生活のコントロール。(2) 運動。(3) ストレスの解消。この三つの原則を基に身体と精神の調和をはかることが健康法である。私は高血圧の既往症と太り過ぎのため、今十斤の減量に挑戦中である。野菜を多く摂取して御飯を少なく一杯、飲酒時は一杯の御飯をやらないうことにしているが、ついオーバーして、一向に効果はあらわれない。まだまだ健康に対する真剣さが足りないのであらうか。それとも健康なためだろうか。

私達の周囲には、散歩、早朝マラソン、趣味を生かしたゴルフ、つり、将棋、囲碁による頭の体操、その外機械器具を使ったもの等、その数多くして選択に困惑する程である。

趣味にあった運動娯楽は容易に自分のものと出来るが、しんぼう、根気、努力を要するものは永続性がない。三つの原則に合致し、自分に適正な健康法を選び、強い意志をもって自分のものとしたい。そして健康で明るく大いに人生を楽しみたいと思っています。

香 川 与 四 郎 (高瀬)

私はその昔山奥の水飲百姓の長男として生

れ貧乏ながら自然に育ち小学校に入る頃から大正六年まで百姓仕事を一通り仕込まれ習得しました。だが百姓では生活不能と悟り土地の郵便局に志願したのです。「通送人を命ず日給式拾五銭給与」でした。この時点から今の自動車の如くに流行していた自転車を用いることになりずっと続けることになりました。おかげで健脚となり徴兵検査では見事甲種合格。大正十二年度師団演習が愛媛県の宇摩、新居、周桑の三郡の山野で挙行されこれに参加の誉を受けこれが又心身上大いなる効果となったと思います。

昭和の初めからラジオ体操が始まり、現在のテレビ体操へと移り、これも私の健康を保つ一つの要素となっています。また食物のことですがまずよく噛むことです。小魚等骨ごと噛みますと実に美味です。カルシウムも豊富で健康にはたしかに良いようです。年はとりましたが今でも歯はおおむね親からのものを保持し十分役に立っています。ケンピキの味も知らず足腰の痛みも何ら感じない毎日です。

特 集 (三)

私の趣味

大野 正義 (松山)

私の趣味は数えてみるといくつかあるが、そのうちの一つに篆刻がある。篆刻というのは書面に押す雅印を彫ることであるが、雅印には篆字を使う場合が多いのでこう呼ぶのである。印を彫るに必要な道具は印材を固定するための印床と称するものと印刀であるが、

その他硝子板、硯と筆、印泥、字書、印譜等がある。印材は通常蠟石といわれるもので、全部中国産で四種類程あるが私の使うのは最も安価な青田石という。最近寿山石というのを買った。はじめてで彫るのが楽しみである。さて印を彫ることにしよう。まず葉書のような厚い紙を墨でまっ黒に塗り、乾いたら朱筆で印と同じ大きさの輪郭をいくつも作ってその中に彫る字を書いて練習し、これならと思う字が書けたら、今度はこれを鏡に写して見ながら印面に左右逆になった字を書きこむのであるが、これがまた難しい。一度ですんなり書けたためしがない。やっと書けたら彫りにかかるのだが、これまた失敗せずに彫り終ったことがない。彫りはじめ頃の失敗は気が楽だが、彫り進んで仕上げるに近くなってきたら、その失敗にはうんざりして続ける気がしなくなる。そんな日はもう放り出して気が向くまで待つのである。だから何時になったら出来るか判らない。この点だけは一風変わった名人並である。

中 川 喜代以知 (高松)

碁を覚えたのは確か小豆島の特定期郵便局に赴任して間もなくで、資金等で世話になっていた隣家の銀行員に手解きしてもらったように思う。当然ながら散々打ち負かされて夜天井に碁石がちらつき寝つかなかったことだけは今もありありと思い出すことができる。以来正式に教わった経歴はないが、碁が性に合うのか戦時中輸送船での部隊移動中、無聊な毎日をザル碁で少しも退屈しなかったことや公社在職中もひまを見付けては同好の士と三百六十一路の盤上で繰りひろげられるドラ

マを楽しんだものである。そこには忍あり決断あり思索は無限で実にたのしい。

現在は一入で新聞碁や囲碁雑誌で名局を並べたり、毎週火木土の午後開催されている地区老人クラブに努めて出席して恰好の相手を見つけて白黒の石運びに熱中している。どうぞ好きな方はおいで下さい。一緒に楽しみませんか。ちなみに私の棋力は公称初段実力二級位です。

川 津 ヨシ子 (高松)

公社を退職して早や八年になった。昨年三月まで美容と健康とを考えての会社づとめもお別れして今は悠々自適とありがたい幸せな毎日を送っている。

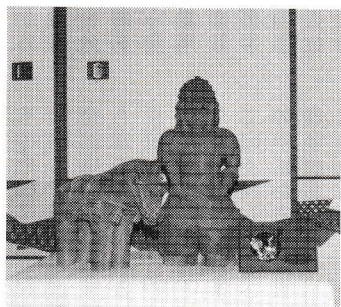
平凡な私の趣味といったら、まず鯉の飼育。広くもない中庭の池、朝起きがけにえきを与えることにしている。元氣よく大小色とりどりの鯉が集ってくる姿はほんとにかわいい。次に盆栽、旅行、特にこれは趣味と言えるかどうかわかりませんが、プロ野球を楽しんでいる。女でありながらと一笑されたいと思いますが、私のたのしみの一つです。四月七日から開幕されナイターの季節となったが私は大の巨人ファン。幸いなことに姉妹が東京に在住していることもあって旅行好きな私は年二三回は上京することになっている。温泉旅行を楽しんだり後楽園でのナイター見物したり。照明に映えたあの青々とした芝生の熱戦、ファンの熱狂した応援合戦、テレビ実況などでは到底味わえない野球の醍醐味をこれから満喫できる観戦の機会を今から楽しみにしている。今日この頃です。

原 田 照 男 (三本松)

俳句と骨董品いじりに暇さえあれば友を誘い海に山に足ならしを兼ねて吟行を楽しみ月一回の句会に持ち寄り互選をして楽しい一時を過している。又月三回の骨董市場には欠さず顔を出している。セリ市の面白さはセリ上げることであり自分の好きな物が出れば安いもので百円刻みにセリ上げついで来れば振り切るためにポンと千円位上げると大ていは落ちる。案外安い値段で取引し一日遊べるので暇つぶしにはもってこいである。先日古物市場で一括購入した反古の中に清國人筆で光緒九年に書いた添書つきの軸物(菊に一番の鶏)が混入してあった。表装は相当傷んでいたが中身は比較的綺麗でしたので補修し時々取り出して楽しんでる。骨董品も時々掘出し物があるのでやめられない。老後の楽しみとしては骨董いじりも又格別である。皆様お始めになってはいかが?何か古いものがあれば見せてもらいたい。いろいろとりとめのない事を書いたが最後に私の拙ない句をご披露してペンを開く。

周 星

春炬燵いつしか眠ってしまいいけり
風花となり薬師寺の護摩供養
行きづりに簌簌の初音かな
朝詣お宮に鶯聞きにけり
蝶生るあるいは風に乘るもあり



表紙のこたば

あじさい

莊野 丹秀 (内海)

日本画家海野旭世氏が先月湯河原の自宅で死去した。六十四才。日展特選、日展無鑑査などの名作を遺して永久に去っていった。告別式に門下生代表として参列、生前二人で仲良く写生したあじさいの花を思い出して書く。良き師であり同郷の親友である氏の冥福を祈りつつ。

池 田 清 繁 (新居浜)

去年三月、余生を趣味に生くべく、二十八年間お世話になった公社を退職しはや一年間の月日が経ってしまいました。毎日を趣味の作品作りで元気で過している今日此の頃です。前号でご披露しましたように、元来の旅行好き、愛車を駆って全国津々浦々を訪ね、そのときのイメージを思い浮べ、構図を練り、樹皮、木の根などで、家、茶室、塔等を作り楽しんでいきます。目下樹皮を使って多宝塔の製作にとりこんでいます。

家内も私と同様に各地の原土を取り寄せ、粘土を練り、武将、馬、農夫、カップ等、の埴輪作りに余生を楽しみ、去年は春秋二回の市の余技作品展に入賞しました。その作品の一点をご披露致します。同好の方のご連絡をお待ちしています。

短 歌

墓 参

藤 田 基 孝 (宇和島)

なづなの實はわが靴に鳴りてふるさとのみ墓への道青く光れり

中国より吹き来し黄砂空に満つ四月十五日母の忌日にして

年古りし母のみ墓の石の台塔をささへて内にかたむく

矢車草折り来て挿しぬくづれたる先祖の墓のひとつひとつに

母死にて七十年は過ぎにけりただばふふと感慨も湧かず

余 栄

ご逝去されました左記の方々に對し多年電気通信事業に貢献された功績により叙位叙勲が授与されました。

正七位勲八等瑞宝章 (壹・三・五)

故 三河 次郎殿 (丸 龜)

勲六等瑞宝章 (壹・一・六)

故 矢野 賢吾殿 (松 山)

從五位勲五等瑞宝章 (壹・二・二)

故 渡部 孟一殿 (松 山)

随

筆

どっこい生きています

山下 茂(佐川)



どっこい生きています。近頃そのような気分が私の脳裏を暫々よぎることがある。キッカケは私と婆さんと孫の三人が甲子園で高知商高の応援団の中で騒いでいるとき、孫がオジイちゃんオシッコと言うので数十段を上るのにドッコイショ、ドッコイショと言いながら上ると、孫曰く、オジイちゃん、ナンデドッコイドッコイ言うの……と。自分は球場は精しいのでオシッコはすませたが自身の気分は穏やかでない。売店で特級酒の熱いのを五百円で二杯ヒツカケタ。

帰宅して筍を掘っていると近くで畠の耕作をしている婆さんが、オジイちゃん弱ったねと言う。ナニヌカシヤ、とは言ったものの四〇センチ位掘ったが根ツ子が現われないので一服だと言って腰をおろしタバコに火をつけたが、どうも老化に対する反抗と哀愁が交々去来する。想えば七十二才七ヶ月の寿命もあと五ヶ月、その後は余命の域に入る。女が男より長生するのは基礎代謝が男の七〇パーセントだからと生理学で教わった腓腹筋、ヒラメ筋、大腿直筋の突張りが衰えたため玄關の上り框で、ドッコイショと気合をかけるようになった。老化は死よりも残酷だ眼鏡は要るし歯は痛むし、と書いたのは有吉女史だったけ。そこで作家の死亡年令を拾ってみた。樋

口一葉二十四才、石川啄木二十六才、広田竜太郎二十七才、正岡子規三十五才、国木田独步三十七才、以上略血。夏目漱石四十五才吐血、芥川竜之助三十五才、太宰治四十才、生田春月四十二才、有島武郎四十五才、三島由紀夫四十五才、川端康成六十九才、以上自殺。北原白秋五十七才糖尿病、島崎藤村七十一才脳溢血、尾崎士郎六十六才心臓病、田山花袋五十七才心臓病等々、武者小路実篤九十二才山下茂百十才、まで生きたいと思っている。春眠曉を覚えずの、ボンクラの書だ。謝々。

釣

田中義隆(松山)

高知で五年も勤務しながら、浦戸湾のニロギ釣りに行ったことがない。小舟にじっとしているのが、多分おっくうだったのだろう。釣りにはしなくても、作家の開高健氏著「私の釣魚大全」を、いつもの癖で寝ころんで読む。行儀は悪いが、それはともかく、――

「バリのどまんなかのセーヌ川で三十センチもあるグウジョンが釣れるのは、都市管理に意をそそいで水の汚染を防いでいることもさることながら、釣師たちが小魚は釣ってもそのあとで『大きくなってまたおいで』とい

って放してやるからなのである。」
ところで五センチそこそこのタナゴという川魚がいる。大漁をねらうタナゴ釣師が多く「タナ研」という会まである。その会で霞ヶ浦へ出かけての帰り、――

「電車のなかでたずねられるまま私がセーヌの釣師のことは見たとおりに話すと、聞きおわって宇留間氏(副会長)は眼を伏せ、低い声で『はずかしいことです』といった。」
このところが私は好きである。

幻の母

藤田基孝(宇和島)

私には自分の眼に現る母の顔がどうしても浮んでこない。それは私が三歳の時、桜の花の散る頃に母は二十六歳の若さで病死したからである。一枚あった写真も私が小学一年の頃紛失したので写真の顔すら全くおぼおぼとして幻のようである。

私の生れは讃岐の西南部に当り、母の墓は今もその火上山の麓に鎮っている。

桜の花は年々に咲くが何故か今年の桜に母の命日を思い出し、急に行く気になった私は列車とバスを乗継ぎながら、かすかに見覚えのある道面をバスを降りて畦道をのぼる。両側に麦の穂が青く光り雀の豌豆が咲き乱れ、三味線の撓に似た薺の実が私の靴に鳴る。

登り切りし丘の上の共同墓地は今でも土葬と見えて昔のままに土を高く盛り、その上に葬列に使った旗竿の竹を切って放射状に挿込んだ新墓が眼につき哀れを感じた。

広き墓原の至る処に野性の矢車草やあやめが紫の花を咲かせて居り、私の母の石塔はその奥に見えた。行つて見ると墓の周辺は雑草が刈られ美しく清掃されてゐて一瞬不審に思った私は近くで墓の草を引く処に尋ねて見た「我が処が手一杯なのに他所の墓掃除など誰がするもんですか」との返事に成る程と思つたが然し故郷に私の身寄りは一人も居ないので疑惑の解けぬまま少し離れた農家に行き水を貰つてきて苔に汚れし墓石を清め、遠くより抱えて来た花を捧げて懇に合掌した。

丁度この日は中国大陸より黄砂吹き来て天を覆い、春の日もその為に光りを失いておぼろに白く、火上山は霞み広き墓原をふんわり

と包んでいた。

母の墓の上に置かれし二枚の石は内側に傾きしまま上部の石塔を支えて居り、傾きし石の隙間より中央部の崩れし窪みが見える。

考えて見れば七十年前も前に土葬した母の墓である。み骨も既に朽ち果てて今では此処に浄土となり部落の礎となつてゐるのだから。

ここの一画に並ぶ墓はどういう人か知らないが何れ私の先祖に相違ないのでその一つ一つに矢車草の花を折り来て挿し、一握りの燐る線香を分けつつ供えて回る。

先の短くなつた私は亡き母に今迄の無沙汰を詫び、これからは毎年四月十五日の命日には必ず墓参に来ることを誓い、幻の母を老の眼瞼に描きながら墓前を寂かに去った。



友佳里五月句会報

俳句同好の公社現職とOBの交流と親睦を図る友佳里句会の作品の一部をご披露します。

耕酒に土佐の目刺の青さかな 潯湖
著我咲けりこわれて残る百度石 落生
白妙に春ゆく雲のほぐれつつ よしみ
鎌倉は昔ながらに風薫る 蔵峯
春雨を黄の傘廻し遊ぶ児等 ひろ
三百年掘り盡したる鉾山若葉 さとる
白鳥の水尾に崩るる新樹影 あきら
母と子のジーンズルック山若葉 たかし
樟若葉演歌を流し魚売る 汀耕
芍薬を剪る一瞬をためらひぬ 正之
色つぎて絨綴めける麦穂波 峰生
春愁や亡き姉の碑に香手向く 李村
架橋待つ麦秋の島見つつ航く 魚人
花薊活けて書斎の野に続く 大樹

お天守の見ゆる新居や風薫る 陽子
亡き父母に故郷の新茶を奉る 都夢

「でんでん債」の

利率、大幅アップ

電電公社が、電気通信施設の建設や改良資金にあてるため、四十七年度から公募発行してきている「でんでん債」の利率が引上げられることになりました。

新しい発行条件は年利率七・三%、発行価額は額面一〇万円につき九九・五〇〇円で満期日には額面で償還されます。毎年の利息（七・三〇〇円）を合わせると年七・三八六%の高利回りになります。

（優）制度をご利用になりますと、一人三〇〇万円までの利息には税金がかかりませんから、でんでん債の高利回りがそっくり活かされます。

でんでん債の期限は一〇年ですが、現金が必要なときは、いつでもその日の相場で換金ができます。

計 報

次の方々が亡くなりました。謹んで哀悼の意を表します。

氏 名	死亡月日	行年	所属
外山 要殿	54.3.5	六九	協町
押川 数男殿	54.3.8	六七	高知
越智 団一殿	54.3.15	七一	今治
大和 勝隆殿	54.5.11	七四	坂出
三津山勘三郎殿	54.5.15	八四	松山

投稿規定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
 - 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
 - 三 随筆、随想 六〇〇字以内
- 原稿締切 八月一〇日
原稿の取扱についてはお任せねがいます。

編集後記

▽老後の糧である年金額の引上げを内容とする「共済組合法の一部を改正する法律案」は四月十日国会に提出されたが、元号法制化案等の審議が先行し延長国会にもちこまれませんでした。会期末の六月十四日までは「恩給法の一部を改正する法律案」等と共に決まってほしいものです。

▽次号第二十八号会報は十月一日発行の予定で、特集として「秋に拾う」を企画していますので、秋の話題などを四〇〇字程度でお願いします。

▽四月から愛媛電友会の事務を青野栄さんに替り、渡部貞好さんが担当されることになりました。よろしくおねがいます。（玉川）

電友会四国連合会会報 第二十七号

昭和五十四年七月一日発行
編集発行 電友会四国連合会事務局

松山市一番町四丁目（〒七九〇）

四国電気通信局内

電話（〇八九九）三六二二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社